

富山県教育委員会教育長 殿

学 校 名 富山県立富山西高等学校

校 長 氏 名 永原 美智代

令和7年度学校経営計画を別紙（様式2・3）とともに提出します。

令和7年度 学校経営計画

1 学校教育目標

社会や地域の担い手としてふさわしい人格の完成をめざし、全人教育を基礎として、生徒一人ひとりの能力・適性の伸長と創造的活力の育成に努める。

- (1) 勤労と責任を重んじ、社会の進展に貢献する実践力を培う。
- (2) 自主自立の気風を喚起し、進んで創意工夫する態度を養う。
- (3) 礼儀と協和を尊び、健康で明朗な心身の発達に努める。

2 学校の特徴

- (1) 多様な生徒の能力・適性に対応すべく、習熟度別学習指導の導入や自由選択科目の設置をし、生徒が各々の段階で、また各々の目標に応じて自己実現に向けて効率よく取り組めるよう支援しつつ、きめの細かい指導に努めている。
- (2) 婦中地区の行事のお手伝いや奉仕活動などのボランティア活動を実施し、地域との交流を深め、社会貢献への意識や福祉活動への関心を高めている。
- (3) 国際交流海外派遣事業を推進し、国際社会に適應できる生徒の育成に努めている。
- (4) 生徒の自主性・積極性を伸ばすために部活動を積極的に奨励している。特に、フェンシング部は輝かしい伝統と実績を誇っている。

3 学校の現状と課題

- (1) 本校生徒は、概ね温和で純朴であり、真面目に学校生活を送っている。反面、おとなしく積極性に欠け、主体的に行動して様々な課題に取り組もうとする意欲に乏しい生徒や、自己の将来に対する展望がもてないまま学校生活を送っている生徒も見受けられる。
- (2) 日常的な声かけや継続的な指導により、規律やマナーの向上が見られるが、時や場所をわきまえない言動や服装により指導を受ける生徒もいる。
- (3) 良好な友人関係を築けないなど、悩みを抱える生徒が少なからずいる。教師からの一方的な指導ではなく生徒の心に寄り添った指導に努め、自己肯定感を高めさせつつ、不安等の解消の手助けが必要である。校内委員会やケース会議で情報共有を図り、生徒や保護者とのコミュニケーションを密にして深い信頼関係を築き、カウンセラー等の専門家と連携しながら、解消に向けてよりよい方向性を見いだすよう努める。
- (4) 学習に対する意欲や自信をもてない生徒が見受けられる。数学や英語における習熟度別学習指導などを通し、各々の理解度に合った学習体験を積み重ねさせながら生徒に自信をもたせ、意欲を向上させて自主的に学習できるよう促していくことが必要である。
- (5) 本校生徒の進路希望先は多岐にわたる。各々の期待に沿えるよう、多彩な進路指導に係る行事を設定し、生徒がそれらの機会を生かして、主体的に進路について考え選択するよう指導することが必要である。また、人格形成のためのキャリア教育を充実させ、生徒が将来一社会人として様々な状況に対応でき、力強く生きていけるよう指導することを目指す。

4 学校教育計画

項目		目標及び計画	
1	授業力の向上 重点1	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な生徒に即応し、学習意欲を向上させるために、各自の授業を見直し、指導内容や方法を工夫する。 ○<u>I C T機器を利用した授業を発展・充実させる。</u>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○他の教員の授業を参観しやすくするため、互見授業週間を設定し、学習教材の精選や指導方法の工夫に努める。 ○<u>生徒個人用タブレットの活用方法を研究し、質の高い授業を展開できるように努めるとともに、有効なアプリケーションや他のI C T機器を活用した授業展開例などを教員間で共有する。</u>
2	学校生活 重点2	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>規則正しい生活習慣の確立と社会性を身に付けさせるとともに、SNSなどの正しい利用の仕方を考えさせ、現代の社会に適応・活躍するための常識と品性を備えた生徒を育成する。</u>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>日頃より規則正しい生活習慣を身に付けさせる指導を行い、結果的に遅刻・早退・欠席の減少を目指す。</u> ○<u>生活実態調査を実施</u>し、SNS等の使用状況を確認・把握するとともに、ネットトラブルに遭っている生徒や、使用状況の悪い生徒には指導や注意喚起等を行う。またトラブルの<u>未然防止に努める。</u> ○本校の実態に即した内容で外部講師による講演会を開催するとともに、全校(学年)集会等での呼びかけを強化し、SNS等の正しい使用について理解を深めさせる。
		目標	<ul style="list-style-type: none"> ○保健だより等を通して、<u>健康と安全について理解を深めさせ、基本的な生活習慣の見直しと改善に取り組ませる。</u>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を見直すために、<u>「夜11時までの就寝」「毎朝、朝食を摂って登校」を重点</u>にして、生活改善を図っていく。 ○保健委員会と協力して、楽しい雰囲気で行う。また、<u>保健だより等を通して生活改善の必要性を説いていく。</u>
3	進路支援 重点3	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアガイダンス等を通じて、<u>進路意識や目標をできるだけ早くもたせ</u>、日々の学習に対する主体性や積極性を育む。 ○生徒一人ひとりの進路目標の実現に向け、<u>学校全体として適切な進路支援を計画的に行う。</u> ○<u>新聞や書籍等の活用により、現代社会が抱える課題等について知るとともに、様々な生き方や考え方に触れさせることで、キャリア教育等の推進につなげる。</u>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>進路講演会や進路ガイダンス等を1,2年生で段階的に実施</u>し、進路意識や進路目標をできるだけ早くもたせる。 ○進路支援においては、担当学年だけでなく<u>学校全体で取り組む体制を構築する。</u> ○<u>読書の奨励や「新聞活用講座」等を開催</u>し、生徒の自主的参加を促し、将来の自分の進路について考える一助とするよう指導する。
4	特別活動 重点4	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動に目標をもって意欲的に取り組む生徒を増やし、<u>部活動の活性化を図る。</u> ○<u>ボランティア活動を通じて自主的、自律的な態度</u>を育て、社会に適応し活躍できる生徒を育成する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が自主的に部活動を行い、また自ら企画・運営していけるように、<u>リーダーの育成のための研修会等を企画</u>する。 ○<u>地域社会の一員としての意識を高めさせ、社会性と奉仕の精神を育成</u>する。また、ボランティア活動への参加を通じて生徒の自主性・積極性が身に付くよう内容や計画において配慮・工夫をする。 ○ボランティア活動に関わる情報を速やかに生徒に伝え、できるだけ<u>多くの生徒が気軽に参加できる体制を整える。</u>
5	その他 重点5	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>P T Aの各種活動を充実させ、活性化を図る</u>とともに、保護者等に学校の様子を周知するため、ホームページの一層の充実を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○P T A総会や保護者会を通して、P T Aへの理解を深めてもらい、P T A役員会への参加を働きかける。 ○<u>学校行事やP T A活動の記事などを、機会を捉えてホームページに掲載</u>する。またSNS等の活用を検討する。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和7年度 富山西高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	授業力の向上
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒に即応し、学習意欲を向上させるために、互見授業を通して、他の先生の授業の工夫を知る。また、自らの授業の指導内容や方法を工夫する。 I C T機器を活用した授業展開を工夫し、発展させる。 特にタブレットを用いた授業展開について、研究する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対して意欲的に活動できない生徒が見受けられる一方、上級学校への進学に向けて、積極的に課題に取り組む生徒もいる。 各教室にプロジェクターが設置され、それらを活用した授業も数多く実施されるようになった。昨年度、I C T機器を使った授業を実施した教員の割合が60%を超える程度であったが、更なる活用を促していきたい。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 互見授業参観を実施した教員の割合 60%以上 I C T機器を使った授業を実施した教員の割合 70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 他の教員の授業を参観しやすくするため、互見授業週間を設定する。 全教員が教科の枠を取り払い、互見授業に意欲的に取り組み、学習教材の精選や指導方法の工夫に努める。また、授業後の感想を簡潔に伝えられるようにする。 I C T活用研修会を数多く実施し、生徒が興味・関心を引くような質の高い授業を展開できるように努める。また、I C T機器を活用した授業展開例などを教員間で共有し、今後の授業への活用の参考になるようにする。

令和7年度 富山西高校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	規則正しい生活習慣を確立し、社会性を身に付けさせる	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の使用に関連したネットトラブルの発生が危惧される。 登校しても脳が活性化されておらず、授業に集中できない生徒がいる。 	
達成目標	S N S利用について理解を深めた生徒の割合	「夜11時までに就寝」の生徒の割合 「毎朝、朝食を摂って登校」の生徒の割合
	60%以上	「夜11時までに就寝」60%以上 「毎朝、朝食を摂って登校」80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生活実態調査を実施し、ネットトラブルについての状況を確認・把握するとともに、該当生徒については個別に注意喚起を行い、未然防止に努める。 本校の実態に即した内容で外部講師による講演会等を開催するとともに、全校(学年)集会時の呼びかけを強化し、S N S等の正しい使用について理解を深めさせる。 「取り組み週間」を設定して、普段の生活を見直すよう働きかける。 保健委員会と協力して、楽しい雰囲気を取り組めるように工夫する。 保健だより等を通して、生活改善の必要性を説く。 	

令和7年度 富山西高校アクションプラン - 3 -	
重点項目	進路支援
重点課題	① 3年間を見通したキャリア教育の推進を図る。 ② 進路実現に向けた支援の拡充を図る。 ③ 図書館行事によりさまざまな生き方や考え方に触れさせることで、キャリア教育等の推進につなげる。
現 状	自らの進路についての意識が希薄で、学年が進んでも明確な目標を見つけることができない生徒がいる。そのため、進路実現に向けた具体的な方策を各自で計画し、実施することが難しく、面接や小論文など学科以外の指導に多くの時間が費やされる。
達成目標	① 1・2年生：キャリアガイダンスによって、自らの進路選択や進路目標が明確になった生徒の割合 1年生 60% 2年生 75% ② 3年生：進路支援に満足した生徒の割合 3年生 75% ③ 「新聞活用講座」によって、現代の課題を知り自分の考えをもつことができたと答えた生徒の割合 80% 「新聞活用講座」や「読書教養講座」などの図書館行事が、進路意識や社会意識を高めるのに有意義であったと答えた生徒の割合 70%
方 策	① 進路講演会や進路ガイダンスなどを1・2年生で計画的に実施し、進路意識の向上を図り、早期に進路目標を明確にさせる。また、進路目標の実現には、積極的に学習に取り組むことが大切であることを、多様な活動を通して伝えていく。 ② 進路選択が多様であり、生徒一人ひとりに合った進路支援を計画的に行う。特に、3年生については、学年担当者を中心に、学校全体で生徒の進路を支援する体制を構築する。 ③ ・今年度も、生徒の自主参加による「新聞活用講座」を実施する。月1回のペースで放課後に実施する。生徒が新聞を活用し、看護・福祉の現場や現代社会が抱える課題等について知り、将来の自分の進路に活かすことを目標とする。また、参加生徒の社会意識を高めると同時に、面接や小論文に活かせるよう、まとめる力や発表する力の育成も図る。 ・1週間の朝読書を1・2学期に1回実施し、どの学年の生徒も本の良さを知り、自分の人生や生活に活かすことを目標とする。 ・読書教養講座は、いろいろな人の考え方にふれて、自分の知識や想いを広げることが目標とする。

令和7年度 富山西高校アクションプラン - 4 -	
重点項目	特別活動
重点課題	・生徒会や部活動の生徒を対象にリーダー研修会を実施し、集団の中でのリーダーとしての意識や能力を身に付けさせる。 ・ボランティア活動を通じて自主的、自律的な態度を育てる。
現 状	・生徒会活動や各部活動において、教員の支援が必要な状態が散見される。 ・各学校行事やボランティア活動に主体的に参加する生徒が多くいるが、主体的な活動に消極的な生徒も見受けられる。
達成目標	リーダー研修等を行う回数 年間6回以上 ボランティア活動に参加した生徒 30%以上
方 策	・リーダー研修会を行うことで生徒が自主的に活動や企画を考え、実行する力を身に付けさせる。 ・ボランティア活動に関わる情報やボランティアの理念を生徒に丁寧な説明を通して、主体的に参加できるように生徒へ働きかける

重点項目	その他	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創立 100 周年を終え、活気のある本校 P T A 活動を維持させ、P T A 役員相互の連携を密にしながら本校独自の取り組み方を工夫する。 ・ 生徒の活動や本校の活動をより多くの保護者や中学生等に知ってもらえるようホームページや S N S 等の一層の充実を図る。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会を十分配慮しながら P T A 活動を計画しなければならない。また P T A 役員となっても会合に一度も出席できない保護者も若干いる。 ・ 教育・安全情報サービスで、様々な情報は流すものの、行事の内容を詳細に伝えることやビジュアル的に訴えることはできない。 	
達成目標	P T A に関わる会合の実施回数	ホームページの記事等のアップ回数
	1 2 回以上	3 0 回以上 (月平均 3 回)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 総会や保護者会等を通して、P T A への理解を深めてもらい、P T A 役員会や各行事への参加を働きかける。 ・ 学校行事や P T A の活躍の記事などを、機会を捉えてホームページや S N S 等に掲載する。 	